

【試合結果】

男子 決勝トーナメント		準決勝																
日時	平成30年1月7日 (日)		10:20 ~															
会場	伊達市総合体育館 Bコート																	
結果	滝川江陵 北空知 55	{ <table border="0"> <tr><td>12</td><td>—</td><td>15</td></tr> <tr><td>12</td><td>—</td><td>7</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>13</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table> }	12	—	15	12	—	7	14	—	12	17	—	13		OT		旭川愛宕 旭川 47
	12	—	15															
12	—	7																
14	—	12																
17	—	13																
	OT																	
審判	主審 山室 洋平	副審 伊藤 浩司																

第32回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

滝川江陵		北空知						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	小笠原 紫礼	×	8	0	4	0	7	1
5	丸山 雄大	×	12	0	6	0	3	2
6	西迫 伯瑛	×	8	0	4	0	9	2
7	野崎 海斗	×	22	3	6	1	0	0
8	松本 太陽	×	5	1	1	0	0	1
9	渡利 颯斗	DNP						
10	下野 裕希	DNP						
11	鈴木 翼	DNP						
12								
13	加賀 隆留	DNP						
14	中原 壘	DNP						
15	安部 光	DNP						
16								
17								
18								
HC	成田 貴幸							
合計			55	4	21	1	19	6

旭川愛宕		旭川						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	萩生田 侑杜	×	8	1	2	1	0	0
5	松山 真之助	×	4	0	2	0	1	2
6	鹿原 拓夢	×	13	0	5	3	11	4
7	白田 翔悟	×	4	0	2	0	0	1
8	酒井 佑颯	DNP						
9	坂本 瑞樹	×	18	2	6	0	7	1
10	多田 款	/	0	0	0	0	0	0
11	森田 耕陽	DNP						
12	小玉 風歌	DNP						
13	上西 陸斗	DNP						
14	高 麗和	DNP						
15	山下 竜輝	DNP						
16	榎本 麗琉	DNP						
17	井上 寛太	DNP						
18	森山 亮	DNP						
HC	堀口 創平							
合計			47	3	17	4	19	8

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

決戦大会準決勝は北大会決勝と同じ対戦。滝川江陵#4、#5、#6、#7、#8、愛宕#4、#5、#6、#7、#9でスタート。先に流れをつかんだのは愛宕。#6がインサイドを攻め、そこから#9が合わせて3ポイントを決める。江陵も#7の個人技を中心に攻めるも、愛宕の硬い守りに阻まれ、なかなか得点をする事ができない。残り4分39秒愛宕リードで江陵が最初のタイムアウト。江陵はタイムアウト明けも#7、#5が積極的に攻め続け、愛宕#6が残り2分半で3回目のファウル。江陵は#4のバスケットカウント、#7の3ポイントを決め、12-15愛宕リードで第1ピリオド終了。
 第2ピリオド立ち上がり、江陵は#7の3ポイントで同点に追いつく。愛宕は#6のインサイドを使って攻めるものの、ファウルの影響からか、積極的なオフェンスができず、合わせのパスをシュートが決まらない。江陵は#8も3ポイントを決め、22-19と逆転する。残り1分13秒愛宕がタイムアウト。愛宕は#6がオフェンスリバウンドからファウルをもらい22-22の同点に追いつく。江陵は#7の個人技から#8が合わせて24-22。江陵2点リードで前半を折り返す。
 後半開始早々、江陵#7が連続得点。更には#5もドライブから得点を決め30-22と点差を広げる。愛宕はディフェンスリバウンドをなかなか取れずに苦しみ、残り6分#6が4回目のファウルでベンチに下がる。江陵#5がドライブからレイアップで32-25となったところで愛宕が後半最初のタイムアウト。#6不在の中、愛宕#9がインサイドで粘り連続得点。インサイド厚く守る江陵に対し愛宕#4が3ポイントを決め、36-32の4点差まで詰め寄る。残り1分32秒、江陵タイムアウト。38-34江陵4点リードで第3ピリオド終了。
 勝負の第4ピリオド。コートに戻った愛宕#6がいきなりインサイドで得点。オフェンスリバウンドも取り愛宕に活気が戻り始める。江陵も#7が3ポイントを決め、簡単に流れを渡さない。残り2分53秒、愛宕#4がドライブからバスケットカウントで44-45の1点差につめよったところで江陵が後半2回目のタイムアウト。ボーナススローも決めて45-45の同点に追いつく。江陵は#5のドライブから#4の合わせ、#7の個人技ですぐに愛宕を突き放しにかかる。残り1分31秒江陵#7がインサイドでシュートを決め、51-47となったところで愛宕がタイムアウト。追いつきたい愛宕はセットプレーから#4の3ポイントを狙うも外れる。ルーズボールを江陵#5が体を張って取り、愛宕に流れを渡さない。江陵は確実なボール回しから#6が得点し、55-47江陵リードとなったところで愛宕が最後のタイムアウト。最後まで安定した試合運びをした滝川江陵が愛宕を振り切り、55-47で北大会での雪辱を果たした。リバウンド、ルーズボールにお互いに最後まで諦めない姿勢が見られる素晴らしい試合であった。